

2024年3月期 第2四半期(FY2023 2Q) 決算概要

2023年11月2日

千代田化工建設株式会社

(証券コード: 6366)



© Chiyoda Corporation 2023, All Rights Reserved.

説明者



代表取締役専務執行役員CFO
出口 篤

AGENDA:

1. ハイライト
2. 損益計算書
3. 利益増減分析
4. バランスシート
5. 受注高・受注残高

【付表1】完成工事高・受注残高内訳
【付表2】業績推移

Our SDGs Materiality

7 エネルギーと気候に 対しての対応	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	13 気候変動に 具体的な対策を
------------------------------	------------------------------	----------------------------

CHIYODA CORPORATION

エンジニアリング
社会の“かなえたい”を共創する
Enriching Society through Engineering Value

1

CFOの出口です。

本日は決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

2024年3月期第2四半期決算の概要について、資料に沿ってご説明申し上げます。

1. ハイライト

1 事業収益力の一段の向上

前年同期比、増収増益。過去10年間での前期の最高益に続き、上期も順調に進捗。

2 収益基盤の安定化

8月にタンゲーLNG(インドネシア)を引渡し。手持案件の着実な遂行、新規分野の収益貢献により、2期連続の高い収益水準を目指す。

3 事業ポートフォリオ革新の加速

脱炭素分野を中心に、新規分野の受注案件の積み上がり、取り組みが加速。リソース配分を最適化。

2

右下2ページ、「1. ハイライト」をご覧ください。

3点ご説明します。

1点目は、「事業収益力の一段の向上」です。

前年同期比で、増収増益となりました。前期が過去10年間での最高益となったことに続いて、この上期も順調な進捗となっています。

2点目は、「収益基盤の安定化」です。

8月にインドネシア・タンゲーLNGプロジェクトを完工、顧客への引き渡しを終えました。引き続き、手持案件の着実な遂行と、新規分野の収益貢献により、2023年3月期、2024年3月期と2期連続で高い安定した収益水準を目指します。

3点目として、「事業ポートフォリオ革新の加速」です。

脱炭素分野を中心に、新規分野の受注案件の積み上げが進んでおり、最適化したリソース配分により、事業ポートフォリオ革新の取り組みを加速しています。

2. 損益計算書

(単位: 億円)

	FY2022 2Q	FY2023 2Q	増減	FY2023 通期予想	進捗率
完成工事高	1,843	2,717	874	4,500	60%
完成工事総利益	121	177	57	350	51%
完成工事総利益率	6.6%	6.5%	△0.1pt	7.8%	-
販売費・一般管理費	△59	△69	△10	△150	46%
営業利益	61	108	47	200	54%
経常利益	66	141	75	200	71%
純利益*	53	86	33	150	58%
為替レート(円/米ドル)	145	150		(注) 140	

(注) 期初の前提レート130円から見直し。

* 親会社株主に帰属する当期純利益



3

右下3ページ、「2. 損益計算書」をご覧ください。

第2四半期の実績を表の濃い水色の列で、前年同期対比の増減をその右列に示しております。

また、通期予想は右端から数えて2列目、通期予想に対する進捗率を右端に示しております。

冒頭の「1. ハイライト」でご説明した通り、前年同期比で、増収増益となりました。完成工事高、利益とも通期予想達成に向けて順調に進捗しております。

完成工事高は2,717億円、前年同期比 874億円の増収、進捗率60%です。

完成工事総利益は177億円、前年同期比57億円増加、進捗率51%です。

販売費・一般管理費は69億円、前年同期比10億円増加しており、費消率は46%です。

営業利益は108億円、前年同期比47億円増加、進捗率54%です。

経常利益は141億円、前年同期比75億円増加、進捗率71%です。

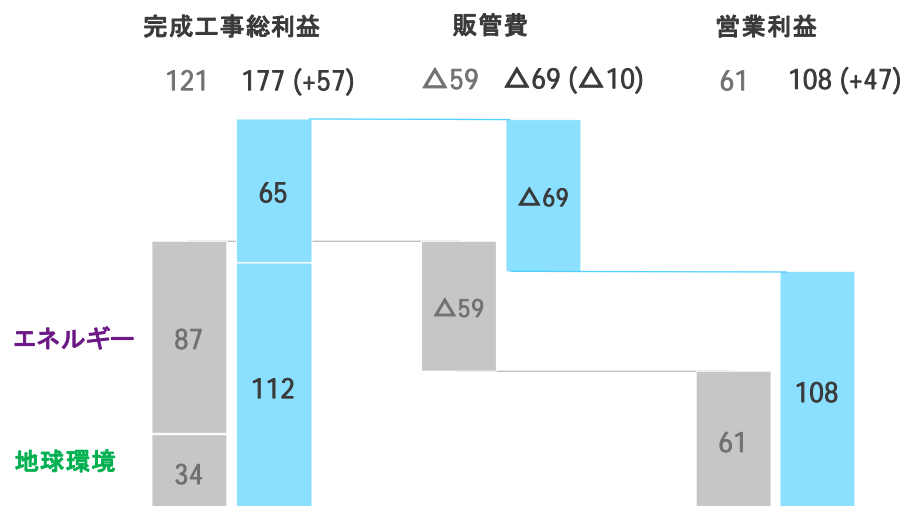
以上の結果、純利益は86億円で、前年同期比33億円増加となり、進捗率は58%となりました。

3. 利益増減分析

(単位: 億円)

FY2022 2Q

FY2023 2Q



()内: FY2022 2Q比増減

CHIYODA CORPORATION

4

右下4ページ、「3. 利益増減分析」をご覧ください。

完成工事総利益、販管費、営業利益について、本年度第2四半期と前年同期の実績を対比してお示しております。水色の棒グラフが今期の実績、灰色の棒グラフが前年同期の実績です。

完成工事総利益は、先ほどご説明した通り177億円で、前年同期比57億円の増加です。
事業分野別では、エネルギー分野 65億円、地球環境分野 112億円で、地球環境分野が大きく伸びています。

販管費は69億円で、先ほどご説明の通り、通期見込み150億円に対する費消率は46%と、適切にコントロールしています。

この結果、営業利益は108億円、前年同期比47億円の増加となっています。

4. バランスシート

(単位: 億円)

	FY2022 4Q	FY2023 2Q	増減		FY2022 4Q	FY2023 2Q	増減
流動資産	3,830	3,752	△78	流動負債	3,563	3,578	15
現金・預金等	612	879	267	営業負債*3	2,927	2,783	△144
営業資産*1	586	550	△37	工事損失引当金	279	256	△23
JV持分資産*2	1,616	1,445	△171	固定負債	280	101	△179
固定資産	236	235	△1	純資産	223	308	85
総資産	4,066	3,987	△79	負債・純資産	4,066	3,987	△79
				自己資本	222	306	84
				自己資本比率	5.5%	7.7%	+2.2pt

*1 営業資産＝受取手形・完成工事未収入金及び契約資産＋未成工事支出金
 *2 JV持分資産＝ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金
 *3 営業負債＝支払手形・工事未払金＋契約負債（未成工事受入金）



5

右下5ページ、「4. バランスシート」をご覧ください。

左表の一番下、総資産は、前年度末4,066億円に対して、本年度第2四半期は3,987億円です。

資産・負債の各項目の金額については、手持ち案件の進捗に伴う増減はありますが、大きな変動はありません。

また、右表にて示しています通り、自己資本は、前年度末 比84億円増加し、306億円、自己資本比率は7.7%となりました。

5. 受注高・受注残高

(単位:億円)

	FY2023 2Q 受注高	FY2023 2Q 受注残高
エネルギー分野	351	8,006
地球環境分野	997	3,167
合計	1,348	11,173

【受注残高主要案件】

	1,000億円以上	50億円以上
エネルギー分野	カタール・NFE LNG	米国ゴールデンパスLNG
地球環境分野	インドネシア銅製錬	CO ₂ メタネーション設備 医薬品原薬製造設備 先端素材生産設備

右下6ページ、「5. 受注高・受注残高」をご覧ください。

第2四半期の受注高は1,348億円、受注残高は1兆1,173億円を確保しています。

受注残高の主要案件は下表をご参照ください。

【付表1】完成工事高・受注残高内訳

(単位:億円)

FY2023 2Q 完成工事高

【分野】

エネルギー	1,531	56%
■ LNG・その他ガス関係	1,395	51%
■ 石油・石油化学	136	5%
地球環境	1,186	44%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	163	6%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	1,023	38%
合計	2,717	100%

【地域】

海外	2,356	87%
■ 中近東・アフリカ	990	36%
■ 北中南米	243	9%
■ アジア・オセアニア	1,121	41%
■ その他海外	1	0%
■ 国内	361	13%
合計	2,717	100%

FY2023 2Q 受注残高

【分野】

エネルギー	8,006	72%
■ LNG・その他ガス関係	7,755	69%
■ 石油・石油化学	251	2%
地球環境	3,167	28%
■ 医薬・生化学・一般化学関係	836	7%
■ 環境・新エネルギー・インフラ他	2,331	21%
合計	11,173	100%

【地域】

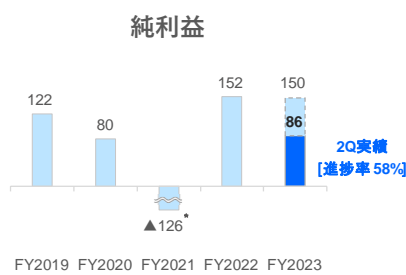
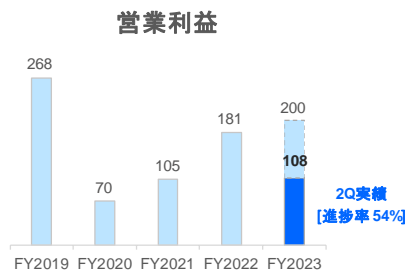
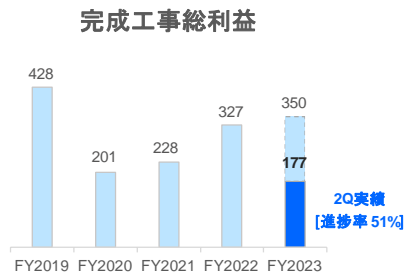
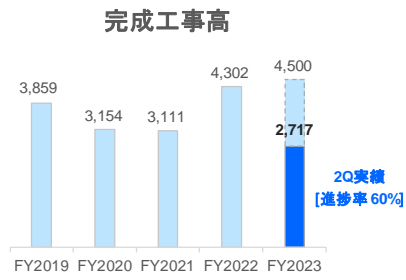
海外	9,620	86%
■ 中近東・アフリカ	6,606	59%
■ 北中南米	857	8%
■ アジア・オセアニア	2,157	19%
■ その他海外	0	0%
■ 国内	1,553	14%
合計	11,173	100%

次のスライド、右下7ページ、8ページは付表です。

右下7ページは、本年度第2四半期の完成工事高、受注残高の分野別、地域別の内訳を示しています。

【付表2】業績推移

(単位: 億円)



* 特別損失 ▲204億円含む(顧客との和解等によるプロジェクト関連損失)



右下8ページは、2020年3月期以降の過去4年間の業績推移、及び本年度の通期予想と第2四半期の進捗をグラフで一覧にしています。

E nriching S ociety through E ngineering V alue



千代田化工建設株式会社 総務部IR・広報・サステナビリティ推進セクション <https://www.chiyodacorp.com/jp/>

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および 将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

© Chiyoda Corporation 2023, All Rights Reserved.

以上で決算概要の説明を終わります。